



業種
官公庁

導入部署・部門
地方自治体

導入前の課題

- ・サービスのスタートまで検討期間が半年しかなかった
- ・「オリジナルで質の良いもの」にこだわっていた
- ・ノウハウゼロからのスタートで、業務がイメージしづらかった

導入後の成果

- ・柔軟な対応と納期厳守で短期間でのサービス開始を実現
- ・「オリジナリティ」を追求し、サービス利用者も増加

ノウハウゼロからのスタート。タイトなスケジュールの中でも、スピーディー・柔軟な対応で事業を実現

浦安市様では、安心して子どもを産み育てることのできる市になるために、2014年度から「こどもプロジェクト事業」と銘打った母親のサポート事業を行っています。

この事業は妊娠届の提出をスタートに、子育てケアマネージャーと保健師が状況を聞き取り、公的子育て支援サービスの紹介、困ったときにはどうすればよいのかをアドバイスし、「子育てケアプラン」を作成してお渡しするというもの。そして、子育てケアプランを作成したお母さんに対し、出産前後の作成の際は「こんにちはあかちゃんギフト」「こんにちはあかちゃんチケット」を、また、お子さんの1歳のお誕生日前後に作成した際には、「ファーストアニバーサリーチケット」をお渡ししています。

窓口に出向き、プラン作成を体験してもらうことで、お母さんは妊娠中・子育て中に必要な情報を途切れることなく得ることができます。また、浦安市様も妊娠や子育てで悩んでいるお母さんの「生の声」を聞くことで、住民が何を求めているのか、問題を解消するためにどんな施策が必要なのかを検討することが可能になるのです。

浦安市様では、事業スタート前から、東京都杉並区による「杉並子育て応援券」の事例と、そこでのパーソルビジネスプロセスデザインの委託について話は聞いてはいたものの、「浦安市ならではのオリジナリティ」を求めているといいます。予算化した年には事業をスタートさせる必要があったものの、担当者の3人はノウハウゼロから手探りでスタートさせたそうです。パーソルビジネスプロセスデザインへの委託を決め、実際に相談がスタートしましたが、子育てチケット・利用ハンドブック作成、事

業者からの請求書受付、育児パッケージの内容調整・製作、在庫管理から発送に至るまで、短い期間で練り上げなければならないことは想定以上に多くあったといいます。

当時を振り返り、パーソルビジネスプロセスデザインの提案について、「思いつく以上の提案をしてくださったこと、タイトだったスケジュールに十分間に合うような提案があり、安心したのを今でも覚えています。」と、話してくださいました。

こうしてスタートした浦安市様の「こどもプロジェクト事業」。今では相談にお見えになった方にお渡ししている「子育て支援ギフト」のマザーズバッグを街なかで多く見かけるようになりました。これもまた、既製品をうまくアレンジしたパーソルビジネスプロセスデザインのアイデアによるもの。担当者様は言います。

「短い期間の中で、質・デザイン・納期に至るまで妥協せずメーカーとかけあってくださったからこそ実現できたギフトでした。」



「子育て支援ギフト」のマザーズバッグ

事業に手応えを感じつつも、「これは一過性のものであってはなりません。出産から子育てまで切れ目なく支援を継続してこそ」と続けます。どんな相談ごとにも寄り添える、子育てケアマネージャー・保健師の質も大切であり、「ママ友問題」に代表される悩み事にも立ち向かえるような「親育て」も視野に入れなければなりません。

「子育てケアプラン」の作成に訪れる方が確実に増え、子育ての現場でママさんたちが何を感じているのかという生の声を聞くことができます。この声を通し、さらに広がりのある支援につなげていくことが重要だと浦安市様は考えています。

子育てケアプラン作成や子育て支援ギフトをきっかけとして、「安心して産み育てられる浦安市」として市民の方に満足いただくこと、名実ともに全国に知られるよう努力していきたいと話す担当者様。

今後は、子育て支援チケット協賛事業者も、これまでの利用データや利用される方の声を伺い、ニーズに合わせて考えていくといいます。その上で、「このデータ分析の点でも、パーソルビジネスプロセスデザインさんには期待をしています。」と話してくださいました。

